

2024年7月14日(日)

中国新聞 SELECT 掲載



10年前、勢いに任せて参加したJICA海外協力隊での経験を遠い昔のように思い返す一方で、私の価値観の礎には、モロッコ・シデスマイル村での日々が確かにある。

JICA
だより



モロッコ
(2015～17年)
中本彩希子さん
広島市

時事ニュース常に議論

私は多くの先生に囲まれ、情報を求められた。職員室ではパレスチナについても話題に上った。中東・北アフリカ地域から見る世界は

日本から見えていたはずの世界と異なっているようで、自分の無知を知った。私が出会った方々は、政治や国際情勢への関心が高

配属先の中学校では休憩に入るとラジオが流れ、いつも先生が時事ニュースについて議論していた。テーマは地域の話題から世界中の出来事まで幅広く、2016年に当時のオバマ米大統領が広島を訪れた際には



学校を中退した若者向けのワークショップに参加する中本さん(奥中央)

く、わがこと

として考えていたのだ。日本で生きる私たちの苦しみや、社会保障を自助と共助に頼る限界も感じた。私はコミュニティ開発隊員として、女子の就学支援に取り組んだが、その土地の複雑な事情が絡み合い、孤立する若者が直面する課題を解決することはできなかった。

誰もが自分のありたい姿で生き、尊重される社会を模索する中、帰国後は社会福祉について学び、主に外国人支援の現場でソーシャルワークに携わってきた。道半ばだが、モロッコで出会った人の顔を思い出し、自分を奮い立たせている。